



仙台ユネスコ

<http://www.unesco.or.jp/sendai/>

発行：公益社団法人 仙台ユネスコ協会

会長 見上一幸

仙台市青葉区国分町三丁目1-1
(仙台第一生命ビル 5階)

電話 022-224-2581

FAX 022-302-3406

構成団体会員の皆さまへ

まず初めに、このたびの、新型コロナウイルス感染症により、日本のみならず、各国で亡くなられた方々、そして感染された方々に心からお見舞いを申し上げます。また、それぞれの立場で、対応に尽力、努力されている全ての方々に敬意を表します。

2030年を目途に「SDGs：持続可能な開発目標」達成に向け国境を越えた連携と協力が進む矢先、突然このような惨禍に見舞われようとは、誰も予想していませんでした。日々、地域で活動されてきたユネスコ協会・クラブの皆さまにおかれましても、様々な制約のもと、これまでの活動や会合の休止を余儀なくされ、戸惑われているのではないかと思います。

しかし、私たちは、UNESCO憲章にもある、「よって平和は、失われぬためには、人類の知的及び精神的連帯の上に築かなければならない」という一節を改めて心に刻み、誹謗と対立ではなく、共感と連帯を深めることで、人類は光を見出すことができるのだという希望を胸に前進していきたいと思えます。こうした危機にあっても、私たちは何ができるのか、するべきなのかを、共に考え、行動に移していこうではありませんか。

すでに、世界寺子屋運動のカンボジアとミャンマーの現場で、新型コロナウイルス対策プログラムを開始いたしました。助けを必要としている人たちと連携しながら、私たち自身が、互いに協力し合うことで、新しい民間ユネスコ運動の新たな道筋が見いだせるものと信じます。

“Stay Positive! Go Forward!” 「つねに前向きに進もう！」を合言葉に、互いを信じて、力強く、歩み続けましょう！

公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟 会長 佐藤美樹



会長あいさつ

会長 見上一幸

新型コロナウイルスの緊迫感を一時忘れるような緑の美しい季節になりましたが、いかがお過ごしでしょうか。

このウイルスは人命を奪い、経済に打撃を与え、社会の持続可能な発展を阻んでいます。この危機に臨んで私たちを護ってくださる医療従事者や生活基盤を支える方々の献身的な努力に心から感謝いたします。あわせてこの感染によりお亡くなりになられた方々のご冥福を心からお祈りするとともに、病床で苦しんでおられる方々の一日も早い快癒を願います。

今年の1月に中国武漢市で感染症が報じられ、瞬く間に世界中へ広がりパンデミックになりました。国内でも4月に緊急事態宣言が出され、混雑の8割削減、「3密」の回避、Stay homeの生活が続きました。このような中、公益法人である当協会が今できることをすべきという阿部理事の提案に応え、マスク不足への対応として、マスクの手作り、高性能マスクの手配に、原理事、川村理事が、即行動して下さったことは、今号の「マスク贈呈」とURLページで詳しくご報告しております。また、マスク作製に、華道の齋藤千代子先生、地球フェスタでお世話になった桜井悦子様と浅野美枝子様のご協力をいただいたことをご紹介します、この場をお借りして感謝申し上げます。

さて、嬉しいニュースです。それは新しい事務所が決まったことです。第一生命保険株式会社のご配慮によって、市役所庁舎の真向かいという好立地のビルの5階をお借りできました。会員のみなさまには会合の場所としても気軽にお立ち寄りいただきたいと思えます。

来年は日本がユネスコに加盟して70年です。ユネスコ国内委員会は昨年末に建議をまとめ、ユネスコ活動の活性化を進めています。みんなで力を合わせて、持続可能な発展のできる“新しい生活 New Normal”をスタートさせましょう。



第23回 ユネスコ子ども絵画展

「わたしの(町の)たからもの」

作品募集

上記絵画展を2021年1月19日(火)～23日(土)に実施を予定しています。今年はコロナ禍の影響で、夏休み期間短縮や活動制限等があるため、「わたしのたからもの」として「身近にある建物、風景に加え、例えば学校に行けなかった時に感じた家族のありがたさ、友達の大切さ、普通の日常生活の喜び・気づきなど」も可とします。

※応募期間は2020年8月3日(月)～10月16日(金)で、応募は原則として個人で行うことになります。

詳しくは当協会のホームページをご覧ください。



公益社団法人仙台ユネスコ協会は、UNESCO憲章の理念に共鳴した人々により、1947年(昭和22年)7月19日、世界で最初の「民間ユネスコ協力会」として誕生しました。

2020年度 総会

◆ 2020年6月29日 ◆



2020年6月29日(月)午前10時から会員総数271名の内192名(委任状を含む)が出席の下、6月中旬に事務所が移転した仙台第一生命ビルの6階会議室に於いて第77回通常総会が開催されました。

今年は新型コロナ禍の影響で約1か月遅れの開催となりました。感染防止のため席の間隔をあけたり出席者全員がマスクを着用する等、例年とは異なる風景でした。

初めに「2019年度事業報告ならびに決算報告」、「2019年度監査報告」が上程され異議無く承認されました。また「2020年度事業計画及び予算」が上程され、これも異議無く承認されました。次いで審議事項として「定款の一部改正」が上程され提案通り承認されました。総会終了後の理事会は、春先から活動を自粛しておりましたので今年度第1回目の会議となりました。

昨年度は「SDGs(持続可能な開発目標)の推進」を重点活動方針に掲げ、新たに「中学生ユネスコカレッジ」「スタディツアー」の実施や「世界平和と防災プロジェクト」の開催など、活動の場を増やしました。今年度もこの方針を引き継ぎ、役員並びに委員会が学校・企業・行政機関等との連携を深め、市民参加型活動を強化してまいります。

残念ながら8月までに予定していた活動は中止となってしまいましたが、下半期は活動内容や情報発信に創意工夫を加え実施していく予定です。

(國分公正 記)

マスク 贈呈



新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う「緊急事態宣言」が出され、自粛生活が続く中で、当協会においても、UNESCOとして何かできることはないか、という声があがっていました。理事会は書面決議、総会は延期と、話し合いもままならない中でしたが、早急に行うことで支援しよう、複数の理事から、手作りマスクの製作と高性能マスクの安価での購入の提案がありました。

マスクの製作には、理事の他、日頃からユネスコの活動にご協力いただいている方に関わっていただきました。材料の手配から奔走しましたが、それぞれご自宅で作成、500枚のマスクが完成しました。

一方、マスクの購入は、当協会の法人会員であるアイリスオーヤマ株式会社様のご好意によって実現しました。

5月14日、見上会長、松坂副会長、西條副会長、内藤副会長、企画した理事、広報担当参加が同席し、仙台市にマスクを贈呈いたしました。市からは高橋新悦副市長が出席され、直接お手渡しすることができました。5,040枚のアイリスオーヤマのマスクは、ようやく始まる小・中学校と、災害に備える指定避難所へ配備するとのこと、また、手作りマスクは、20枚を直接副市長に、その他、子どもたちや障がいのある方々に関わる団体様、錦町庁舎でお世話になっている方々、自粛中も働かざるを得ない方々を中心にお分けしました。皆様へ、大変喜んでいただきました。

まずは喫緊の課題に、仙台ユネスコ協会として支援できたことに安堵いたしました。ご協力いただいた皆様へ感謝いたしますと共に、今後も当協会ができる支援や活動を、会員の皆様と一緒に考え、実行していきたいと思ひ、ご報告させていただきます。

(内藤恵子 記)

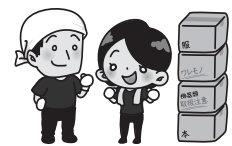
事務所を移転



仙台市のご厚意で4年間お世話になった事務所の引越し作業を6月13日(土)に行い、15日から新事務所での業務を開始しました。

こちら第一生命保険様のご配慮でお借りすることができました。交通の便に恵まれた場所ですので、皆様お気軽にお立ちください。

(松坂宏造 記)



“11枚の書きそんじハガキでひとりごとがひと月学校に” ユネスコ世界寺子屋運動にご協力ください。

書きそんじた郵便ハガキをご寄付ください。送れなかった63円ハガキは1枚につき58円の募金に替えることができ、11枚あつまれば、カンボジアではひとりごとがひと月学校に通えます。ユネスコ世界寺子屋運動にご協力ください。



会員募集 あなたも参加しませんか!

公益社団法人仙台ユネスコ協会は、世界で初めての民間ユネスコ運動の団体として、1947年7月19日に誕生しました。あなたのご参加をお待ちしています!

団体会員(一口)年会費	20,000円
個人会員(一口)年会費	5,000円
青年部会員(一口)年会費	2,000円

仙台ユネスコ協会 会員数

団体会員	94
個人会員	170
青年部会員	14
合計	278

(2020年5月末現在)

【編集委員】

松坂 宏造 小泉知加子
赤塚 吉雄 伊藤 律子
岩山 浩一 菊池 健一
佐藤 皇季 千葉 雅保

【編集後記】 仙台ユネスコ会報463号をお届けします。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、ほとんどの行事がなくなってしまいました。そんな中、6月29日錦町庁舎から仙台第一生命ビルに引っ越しての初めての総会は、ここのビルの会議室。広々とした仙台の一等地にあるビルの中だけに、快適で素晴らしい。

一年のうち早々半分は過ぎてしまいましたが、後半ともにユネスコ活動をしていきましょう。

(仙台ユネスコ会報編集長 小泉 知加子)